★女郎谷★

佐和山城落城の折に残された女性たちがここから身を投げ、死にきれなかった女性たちの苦悶の声が数日に渡ってこだましたと伝えられる場所。ただし本当に身を投げたかどうかは疑わしく、崖の下からも遺骨などは見つかっていないのだとか。そのため、後世になってから佐和山城落城の悲劇さを際立たせるために作られた可能性が高いお話です。崖下を覗き込む時はくれぐれも足下には気をつけて。伊

女郎谷

★千貫井★

人間はたとえ食べなくても１週間は保つが水が無ければ３日で死んでしまう。水はそれだけ貴重なものです。山城に籠城するには武器弾薬や食料よりもまず水の確保が最重要課題。城の中に井戸があるということは水に飢える心配がないということで、一千貫（大金のたとえ）のお金にもかえられないほどの貴重な井戸だ、という意味でこの名前がつけられています。伊

千貫井

佐和山城の歴史年表

佐和山城は近江湖北と湖東の境目に位置する城として重要視されてきました。石田三成が城主であったことは広く知られていますが、他にも多くの武士が城主をつとめていました。

・鎌倉時代初期
　佐々木定綱の六男六郎時綱が佐和山付近に館を構える。
・応仁～文明年間（1467 ～ 86）
　六角高頼の家臣小川左近太夫およびその子伯耆守定武が城主となる。
・天文年間（1532 ～ 55）
　六角・京極・浅井が三つ巴の戦いとなり、佐和山城争奪戦が繰り広げられる。
・永禄4年（1561）
　浅井長政、六角義賢から佐和山城を奪還し、磯野員昌が城代となる。
・永禄 11 年（1568）
　織田信長、浅井長政と同盟を結び、足利義昭上洛の際に佐和山城に入る。
・元亀元年（1571）
　姉川合戦後、磯野員昌は信長に降伏し、丹羽長秀が佐和山城に入る。
・天正 10 年（1582）
　本能寺の変後、堀秀政が佐和山城に入る。その後、同 13 年には堀尾吉晴が入る。
・天正 19 年（1591）
　石田三成、代官として佐和山城に入る。
・文禄4年（1595）
　石田三成、湖北四郡 19 万 4000 石を治め佐和山城主となり、翌年大改修を行う。
・慶長5年（1600）
　関ヶ原の戦い。佐和山落城。
・慶長6年（1601）
　井伊直政、佐和山に入る。翌年、佐和山城にて死去。
・慶長 11 年（1606）
　彦根城天守が完成。直政の子である直継が彦根城に入り、佐和山城は廃城となる。

女性のための近江戦国山城マップ佐和山 清 雪 桜 今 伊 同 集 班 製作
編集：滋賀県教育委員会　平成 23 年 1 月 19 日

③ 山折

★『カモケ坂道往還』★

「龍潭寺越え」と呼ばれる「カモケ坂道往還」は城の東西を結ぶ主要交通路である。古老たちの聞集書には「昔、牛馬が行き交い、巡礼の旅人らまでも行き来したと道であった」と記されている。その「カモケ坂道往還」の鞍部はいわゆる「堀切」で、北側の尾根続きにある弁天山、物生山からの敵の襲来をここで遮る役割も併せ持つ。さて「カモケ坂」のカモケ、似たような音に三成家臣・蒲生郷舎の「ガモケ」がある方が、果たして彼の名前と何か関係はあるのだろうか。伊

かもう坂往還

★本丸★

彦根城築城の際に、佐和山の天守台は約 18m切り下げられたと伝えられ、建物も現存しません。しかしこの地に立つと、徹底的な破城は、三成への強い憎しみからむしろ、形ある城が残れば三成を慕う気持ちも残り続けることを畏れたからではないだろうかと思えてきます。天守の姿は今も謎に包まれたままですが、目を閉じて、「三成に過ぎたるもの」と言われた在り日の佐和山城を思い描き、戦国の世に思いを馳せましょう。穂

本丸

★石垣★

算木積の石垣隅角部。巨石二個ですが、佐和山城のかつての栄華を偲ばせます。ここより西へ数メートル先には石垣の一部と思われる大きな自然石が一つ、更に西、千貫井の上方斜面にも石垣の跡が。当時の石垣の連なりが想像されます。

佐和山城破壊後築かれた彦根城に、石垣は転用されたと言われてきましたが、石質等の調査で実は佐和山の石は殆ど彦根城に使われていない事が判明。佐和山の石垣はいずこに？ 伊

本丸東南隅の石垣

★『西の丸・塩焔櫓』★

「カモケ坂」鞍部から最初に取り付くのが「塩硝櫓（火薬庫）」である。落城時、三成家臣・福島治郎作がこの塩硝櫓に火をかけると すぐに天守まで燃え移り、城内の女子らは本丸東の谷から身投げをして果てたのだと伝わる。今、ここには瓦片が散乱し、塩硝櫓が瓦葺きの建物であったことを教えてくれる。伊

西の丸塩硝櫓跡にある謎の大きな穴

★山城用語集★

・土塁（どるい）
　土を盛り上手状にしたもの。それに石を組むと石塁になります。
・竪堀（たてぼり）
　山の斜面に上から下に向けて掘った空堀。敵が斜面を移動するのを阻止します。
・堀切（ほりきり）
　山の尾根を断ち切って作る空堀。尾根伝いに攻めてくる敵を阻止します。
・切岸（きりぎし）
　山の尾根や斜面を ほぼ垂直に削り落とし、防壁とします。
・曲輪（くるわ）
　建物を建てたりする目的で山を平らに削って区画した平坦地。本丸・二の丸等を指します。
・腰曲輪（こしくるわ）
　山の斜面を平らに削って作った曲輪。中でも細長いものを「帯曲輪」といいます。
・虎口（こぐち）
　城、曲輪の出入り口。「小口」とも書きます。
・大手（おおて）
　城の正面。
・搦め手（からめて）
　城の裏側。伊

佐和山城図（彦根城博物館蔵）